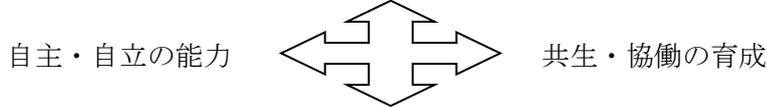


2024（令和6年）度 久地小学校 学校経営計画

I 学校教育目標 全体構想

教育関連法令 学習指導要領 かわさき教育プラン・キャリア在り方生き方教育

＜久地小学校がめざすもの＞
 知・徳・体・意のバランスのとれた子どもの育成
 子どもたち一人一人の笑顔が輝く学校



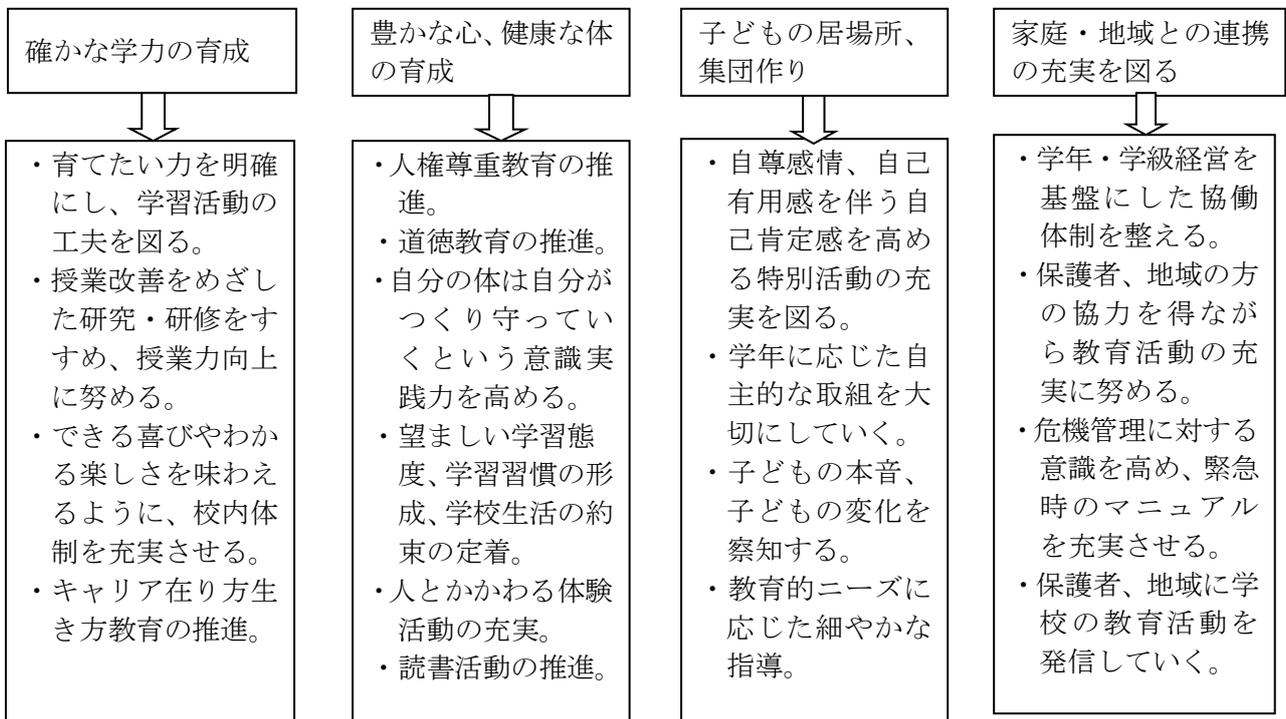
学校教育目標 ～めざす子どものすがた～
 よく考え 工夫する子【かしこく】知
 なかよく はげましあう子【やさしく】徳
 たくましく ねばり強い子【たくましく】体
 めあてをもち 学び続ける子【やりぬく】意



久地小が育成を目指す子どもたちの資質・能力

- 基礎的・基本的な知識・技能を着実に習得し、既習事項と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより、知識・技能の定着を図るとともに活用する。（生きて働く「知識・技能」の習得）」
- 問題を他者と共有しながら、対話を通じて多様な考え方や共通点や相違点を理解し、協力しながら問題を解決していくことができる。（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」
- 学ぶことに興味や関心を持ち、見通しをもってねばり強く取り組み、自己の学習活動を振り返って、次の学びにつなげることができる。（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

今年度の重点



II 学校経営 基本方針

1. 学習指導要領及びかわさき教育プランをもとにした経営の基本方針

学習指導要領、かわさき教育プランをうけて、めざす子どものすがた、めざす学校のすがた、めざす教職員のすがたを明確にもちながら家庭・地域・幼保・中学・学校運営協議会との連携をとりながら教育活動を行う。

<学習指導要領>

総則の「小学校教育の基本と教育課程の役割」には「児童の人間としての調和のとれた育成を目指す」ことが明記され、教育課程の編成においても

- ・知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成
- ・「知識及び技能」の習得と、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養という、いわゆる資質・能力の三つの柱のバランスのとれた育成を重視していく必要があると記されている。

また、教育活動を進めるにあたっては、「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指す」と記されている。

<第2次かわさき教育プラン第3期実施計画（2022～2025）>

基本理念「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」

基本目標「自主・自立」「共生・協働」

基本政策1 人間としての在り方生き方の軸をつくる「キャリア在り方生き方教育」の推進

自分をつくる	学ぶこと働くこと生きることの尊さを実感し、学ぶ意欲をもつ
友達と一緒に	共生・協働の精神をもち、共生社会を実現していく
わがまち川崎	心のよりどころとしてのふるさと川崎への愛着をもつ

<学校がめざすもの>

知・徳・体・意のバランスのとれた児童の育成
～一人一人の笑顔が輝く学校～

<めざす子どものすがた・・・学校教育目標>

よく考え 工夫する子【かしこく】

- ・進んで学習し基礎基本を身に付ける
- ・人の意見を聞き、深く考えて行動する
- ・体験を通して、学力をつける

知識・技能 自分をつくる

自主・自立の能力

なかよく はげましあう子【やさしく】

- ・互いを認め合い、助け合い協力する
- ・思いやり、感謝の気持ちをもつ
- ・言葉づかいを大切にする

思考力・判断力・表現力 友達と一緒に

共生・協働の育成

学びに向かう力 地域愛

めあてをもち 学び続ける子【やりぬく】

- ・自分のたてた目標にむかって、最後までやりぬく
- ・強い意志と責任感がある
- ・みんなのためによく働き、喜びをあたえる

学びにむかう力 自分をつくる

たくましく ねばり強い子【たくましく】

- ・健康安全に気をつけ体をきたえる
- ・心身ともに健康で明るく元気に生活をおくる
- ・自分で考え正しく行動し、最後まであきらめない

<教職員のすがた>

子どもに対して

- ・子どもの心を理解し、適切に指導できる
- ・学習面、生活面の課題解決に向け、誠意をもって対応
- ・厳しさの中に温かみがある（きちんと褒め、きちんと叱る）
- ・ぶれない学習指導、生活指導

自分に対して

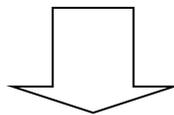
- ・研修、研究に取り組み、実践力を磨く
- ・小教研日等を利用しての研修参加
- ・わかる、楽しい授業をめざす
- ・育てたい力、本時のねらいの明確化

職場に対して

- ・組織力を大切にしながら、課題に取り組む
- ・教職員の協力体制づくり
- ・情報の共有
- ・校内研究の充実

<学校のすがた・・・経営方針>

- 学ぶ楽しさが味わえる学校・・・確かな学力の育成
- 豊かで明るく思いやりのある心を育てる学校・・・豊かな心の育成
- 健康な体と最後まであきらめない心を育てる学校・・・健康な心身の育成
- 子どもが主役となり達成感が得られる学校・・・自分の居場所、一緒に生きる仲間、集団作り
- 保護者、地域と共に歩み、信頼される学校・・・保護者・地域・幼保中・学校運営協議会との連携



◎どのような子どもたちを育てていきたいのか、職員全体で共通理解し、学年の実態に合わせた活動を推進していきましょう。

まずは、基本的なことをしっかり押さえてスタートしましょう！

○子どもたちにとって魅力ある授業づくりを！

- ・自己流にならず、共同研究を大切にしながら授業力を高めていきましょう。
- ・子どもが興味関心をもてるよう、教材研究を大切にしましょう。
- ・育てたい力を明確にすることで、毎時間の指導ポイントも明確になり指導が充実します。
- ・準備をしっかり行うことで、子どもが授業に集中できるようになります。

○よりよい人間関係づくりを！

- ・忙しい日々ですが、子どもとかかわる時間を大切にして、児童理解に努めましょう。
- ・朝、教室で子どもたちを笑顔で迎え、あいさつを大切にしましょう。子どもたちが安心します。
- ・子どもたちから信頼される大人になるため、子どもに寄り添う気持ちを大切にしましょう。
- ・子どもたちと遊ぶ時間も大切にしましょう。

○落ち着いた学級づくりを！

- ・教室環境（机、棚、掲示物）、廊下の荷物、靴箱の整理整頓を意識しましょう。
- ・指示の出し方、声の大きさ、話す速さを意識しましょう。
- ・学習のしつけ、給食のしつけなど、ルールをしっかりと確認しましょう。
- ・先生を試すときがある、規範の基準をかえないようにしましょう。
- ・しかるよりほめる。でも、ダメなことはしっかり叱る。
- ・やるべきことに粘り強く取り組ませましょう。

2. 経営方針にむけた具体的な取り組み

(1) 学ぶ楽しさが味わえる学校・・・確かな学力の育成

- ①子ども一人一人の学習状況を把握し育てたい力を明確にし、授業改善、授業力向上に努める。
 - ・学年会等で学習ねらいや指導ポイント等について共通理解を図りながら教材研究をすすめ、内容に応じて学習形態を工夫し、子どもたちの意欲を高め、さらに持続するような手立てを考える。
 - ・主体的対話的深い学びの視点を意識した授業力向上にむけた授業を心がける。
 - ・**新学習状況調査の分析から児童の実態に合わせた目標をたてながら具体的な取り組みをする。**
- ②子どもが、できる喜びやわかる楽しさを味わえるように校内体制を整える。
 - ・支援教育COを中心にして、学習面や生活面で課題を抱えている子どもができる喜びやわかる楽しさを味わえるように体制づくりを構築する。
 - ・別室登校の子どもが教室に戻れるように教室環境や授業形態の工夫、**GIGA 端末**を活用した学習を提供も行っていく等、担当者と担任の連携を図り、児童理解や学ぶ意欲、自信につなげていく。
- ③キャリア在り方生き方教育の推進
 - ・生活科や道徳、その他日常の様々なところに関連させながら、**引き続きキャリアノートとカリキュラムを連動させキャリア在り方生き方教育を推進していく。**
 - ・**市制100周年に向け地域を意識した活動をすすめていく。**
 - ・夢や仕事に対する子どもの意識を高めるため、**6年生のキャリア教育**については、引き続き、保護者から様々な職業、人生について話をきく。

(2) 豊かで明るく思いやりのある心を育てる学校・・・豊かな心の育成

- ①人権尊重教育の推進
 - ・育てたい力を明確に、子どもたちとの対話を大切にしながら人権感覚を磨いていく。
 - ・効果測定をもとに教職員間で子どもの個性や人間関係を見取り、共通理解を図る。共生共育プログラムにも計画的に取り組み、日々の授業の中で人権を大切にする指導を意識していく。
 - ・**SOSの出し方受けとめ方教育は、子どもに寄り添う気持ちで継続していく。**
 - ・**だれ一人取り残さないというSDGsの目標とも関連させ、自分たちにできることを考える。**
- ②道徳教育の推進
 - ・担任が言葉遣いを丁寧にすること、子どもたちに寄り添う気持ちを大切にして他者を思いやる気持ちを育て、日々の生活での指導を大切にしていく。
 - ・子ども自身が道徳的価値について考え、学びを深めるために、子どもの思考を揺さぶる問い返しをするように意識していく。
- ③望ましい学習態度、学習習慣の形成、学校生活の約束の定着
 - ・クラスを越えてどんな人にも挨拶することができるよう、あいあつや廊下歩行など学校生活をよりよくしていくために大切なことを久地小議会でも議題として取り上げ、約束を守る態度を育てる。
 - ・久地小ナビの内容を見直しながら、保護者にも周知する。
- ④人とかかわる活動や体験活動の充実を図り、感動する心を育てる
 - ・図書ボランティア、学習支援ボランティア、教育活動サポーター、地域の学習協力者を積極的に活用して教育活動をすすめていく。
 - ・梨づくりや川崎北工業会との交流等。地域素材を生かした学習など、地域の方と交流できる学習を計画的に行う。
 - ・**読書活動も計画的にすすめ、子どもの感受性を育て豊かな心の育成に努める。**

(3) 元気な体とあきらめない心を育てる学校・・・健康な心身の育成

- ①自分の体は自分がつくり守っていくという意識と実践力を高める
 - ・各学年に食育担当者を設け、栄養職員や養護教諭と連携し、カリキュラムを計画的に進める。
 - ・子どもの体力向上のため、キラキラタイムの実施や児童会を中心とした、運動に親しめる集会を計画していき、健康教育を充実させる。
 - ・どうすればあきらめない心が育てられるのかについて、職員間で話し合う。
- ②日常の体育学習の改善
 - ・学習カードの見直し、育てたい力に合わせて、めあてを記入させて運動に取り組ませていく。
 - ・体育倉庫の整理や教具の補充とともに、場づくりなどの職員研修を実施していく。

(4) 子どもが主役となり達成感が得られる学校・・・子どもの居場所、集団作り

- ①子ども一人一人が存在感、自己有用感を高められよう特別活動の充実を図る
- ・クラスや学年の中で子どもたちの活動が認められるような場面を作っていく。
 - ・久地小タイムを利用した委員会やクラブ活動の発表の機会を保障していく。
 - ・川崎SDGsパートナーとして、SDGs意識した活動を子どもたちと考え、実行していく。
- ②各学年に応じた自主的な取組を大切にしていく
- ・学年の実態に応じて、実行委員会の活動の意義やねらいを確認し、一人一人が役割をもって主体的に活動できるようにする。
 - ・一人一人に役割をもたせ子どもの居場所づくりや心の教育に心がける。
 - ・学年交流では遊びを通して相手意識や思いやりをもてる機会を作り、イチロク（1年と6年）、ニコニコ（2年と5年）、3年4年交流を増やしていく。
- ③教育的ニーズに応じた細やかな指導を心がけ、子ども同士の人間関係や変化も見逃さないようにする。
- ・学年会や面談等で児童の情報を共有し、変化や状態を把握するようにする。週1回の打ち合わせでの全体共有継続。
 - ・年3回の個人面談やアンケートをとったあとの丁寧な児童からの聞き取りをして、思いに寄り添う。
 - ・長期欠席傾向にある児童の登校支援について、保護者に寄り添う意識で対応していく。
 - ・登校渋りがあった場合には、スピード感をもって保護者と連絡を取り合い連携することで、チームで支援をしていく。
 - ・子どもの状態が悪化する前に、支援を要する児童についてケース会議を行い、どのようにその子と関わっていくか、職員全員に共通理解を図ることで統一した指導を行う。

(5) 保護者、地域と共に歩み、信頼される学校作り・・・地域・家庭との連携の充実を図る

- ①望ましい人間関係づくりのために、学年・学級経営を基盤にした協働体制を整える
- ・学年会や児童指導部で話題になった内容について、支援教育COを中心としたケース会議で具体的に児童や保護者の対応について検討していくようにする。
 - ・報告・連絡・相談を徹底していく。
- ②保護者、地域の方の協力を得ながら教育活動の充実につとめる
- ・学年会などで教育活動に見通しをもつように心がけ、図書ボランティア、学習支援ボランティア、教育活動サポーター、地域の学習協力者を積極的に活用して教育活動をすすめ、子どもたちの心に郷土愛を深めていきたい。
 - ・子どもの声を形にするために、学校運営協議会とも連携をとりながら教育活動をすすめる。
- ③危機管理に対する意識を高め、緊急時（地震・火災・防犯等）のマニュアルを充実させ、その活用方法について教職員で確認していく
- ・学校防災対策指針に基づいて作成した危機管理マニュアルを全職員で共通理解をし、より実践的な研修や訓練を行っていく。
 - ・中学校区を意識した防災訓練を行いながら、子どもたちの防災意識を高め、防災教育も充実させる。
 - ・危機管理意識を高めるため、学校事故の初期対応として、保護者にきめ細かく連絡を入れることを常に心がけ、ケガ等学校事故発生時には、担任と養護教諭が連携し、迅速で誠実な対応を徹底していく。
- ④学校便り、ホームページ、授業参観等を通して、保護者、地域に学校の教育活動を発信していく
- ・ホームページで教育活動のようすが伝わるように定期的に更新していく。
 - ・学校だよりや学年だより、保健だより、ミマモルメなどで保護者が必要とする情報を定期的に発信していくようにしていくとともにホームページから各たよりを見られるような工夫をしていく。・ホームページで教育活動のようすが伝わるように定期的に更新していく。